

# レンタルスタジオのレタッチ部門で活躍する高性能モニタ

(株) イメージスタジオ・イチマルキュウ

http://www.imagestudio109.co.jp/  
MEGURO Cue!スタジオ (写真 1)  
〒153-0064  
東京都目黒区下目黒 2-24-12  
MEGURO Cue!  
TEL 03-3491-1090  
FAX 03-3491-1072



世田谷スタジオ  
〒156-0053 東京都世田谷区桜 3-18-7  
TEL 03-3425-2511 / FAX 03-3425-3760

この連載もいよいよ第5回目を数え、今回で最終回となる。その節目にふさわしい業種として選んだのがレタッチャーという職業である。

レタッチャーは昔から存在し、色を扱う専門の職人でアナログレタッチャーとも言うべき職種だった。しかし、ここで言うレタッチャーはデジタルレタッチャーと言うべき Photoshop の達人たち (特に Photoshop だけというわけではなく、デジタル画像処理全般を知り尽くしている) のことを指している。アナログレタッチャーも色に関する権限を有してはいたが、デジタルレタッチャーはこの比ではなく、絶対的な権限を持っている、色に関する総合的なプロデューサーである。色はレタッチャーが自分で決めるので RAW データ入稿が前提で、色とか調子再現については撮影者以上の権限を持っているのだ。現在広告写真として流通している画像のほぼ 100% は、このレタッチャーの手を通してと言っても過言ではない。だから現代の若者にとってレタッチャーは、カメラマンやデザイナー以上の人気商売となっている。

レタッチャーには個人経営のところもあれば、今回訪問した株式会社イメージスタジオ・イチマルキュウ (通称イメージスタジオ 109) のように会社組織のところもある。イメージスタジオ 109 は広告代理店の株式会社東急エージェンシー

(<http://www.tokyu-agc.co.jp/>) グループに所属するレンタルスタジオである。レンタルスタジオと言っても CF およびスチール撮影スタジオの運営、ポストプロダクション事業 (動画の編集)、グラフィック制作およびデジタル画像処理まで幅広くカバーしているのは、まさしくボーダレスのデジタル時代そのものである。CF (動画の商業フィルム) 撮影でも、最近は静止画 (スチール) で有名なカメラマンが担当するケースが多らしく、カメラマンの世界にもボーダレスの波が押し寄せているようだ。理由はライティングの品質で、女優さんの CF などはきっちりしたライティングで撮ってやれば、美人度が数倍アップするというわけである。要するに動画はアングルとか編集、時間軸に重きが置かれているが、静止画は写真=光画と言われるくらいにライティングが命ということである。

そしてライティングをもっと引き立たせるのがレタッチで、イメージスタジオ 109 ではこのレタッチ部門を 2005 年に立ち上げ、2006 年から実稼働させている。デジタル撮影/レタッチの部門名を「Digital Imaging 109」と称し、今やイメージスタジオ 109 の特色になっている。今回はその部門の責任者で、スタジオ事業部長である山田修一氏 (写真 2) に詳しくお話を伺うことができた。

それではイメージスタジオ 109 の内部を紹介していく。大型の写真スタジオを都心に作るの難しいが、イメージスタジオ 109 の場合、写真 3 の搬入口を見れば分かるように自動車クラスならそ



写真 2



写真 3



写真 4



写真 5



写真 6



写真 7

のままスタジオに搬入して撮影することができる立派な大型スタジオである。また都心に近い目黒というロケーションは郊外の大型スタジオよりもタレントさんやクリエイターの方にも好評で、かつ受付 (写真 4) やミーティングエリア (写真 5) も実にオシャレで、無線 LAN 完備、Windows/Mac 使い放題という極めてカンファタブルな空間が提供されている。ギョウカイ好きの私などはつついイイ気になって、夕方に「おはようございます」朝早く「お疲れさま」と言いたくなってしまふ雰囲気だ。

レンタルスタジオだから機材は充実しているのだが、その中でも重要なのがモニタである。デジタルなので優秀なモニタがないと画質のチェックができないからだ。その中でもナナオのフラッグシップ的存在の ColorEdge CG220 や CG221 が大人気で、ほかの優秀なモニタも揃っているのだが、レンタルでは最上位機種しか必要とされないらしい。写真 6 が機材センターなのだが、無造作に置いてあるモニタは CG220 や CG221 であり、1 台ウン十万円もする高価なものばかりである。現在レンタル用に 5 台が、フル稼働状態ということだ。また機材センターには写真 7 のようなオビキュライト (ライティングボックス) も置いてあり、年始の挨拶用タオルと一緒に置いてあるの

が生々しい。

肝心のレタッチ部門だが、写真 8 がレタッチスタッフの部屋である。100% 商業広告目的なので画面はお見せできないが、スタッフ 8 名に CG220 が 6 台 (ほかのモニタ 2 台) 与えられている。また写真 9 のようなデジタルブース (レタッチルーム) が 2 部屋用意されており、最新鋭の CG221 が使用されている。室内照明も 5000K、壁の色もデザインを損なわずに中性色に統一されている。もちろん色見台も完備されているのは言うまでもない。デジタルブースのみの貸し出しも行っているが、実際にはオペレーター込みで貸し出されるケースばかりだという。動画のポストプロ (ポストプロダクションと呼ばれ、動画編集機とオペレーターを貸し出す商売) と一緒に、機材以上にオペレーターの質が問われるわけだ。

このようにイメージスタジオ 109 では合計 13 台の CG220 と CG221 がフルに使われているのだが、高品質の画質を維持するためにはカメラやソフト以上にモニタ品質が重要なのだ。そんな意識が浸透してきたことを証明する使われ方である。

帰り際に今流行のデジタルサイネージがスタジオの予定表に使われていることを発見、よくよく見るとこれまた EIZO ブランドであった (写真 10)。現在は販売されていないようだが、カラー

マネジメントされたデジタルサイネージ時代もすぐに来るような気がする。その時にはまたナナオの出番なのだろう。 (郡司秀明)



写真 8



写真 9



写真 10